



Honsfloris

フォンス・フローリス古楽院 関西講座発表会

2009年12月13日(日) 午後3時30分

母の家ベテル 入場無料

フォンス・フローリス古楽院は、西欧中世・ルネサンス・バロックの時代の音楽を、主に歌のアンサンブルを中心として実践する人たちのための学びの場です。古い音楽にふさわしい発声の基本、記譜法、声と声あるいは声と楽器のアンサンブル、言語の感覚、音楽史の知識、そして古い音楽の持つ深い霊性と高貴な精神性を、様々な楽曲を通して、楽しみながら学んでいます。今年から開催になった関西講座の第1回の発表会です。グレゴリオ聖歌とルネサンスの宗教音楽を、ミサの形式を模したプログラムで演奏します。勉強と練習の成果をお聴きいただければ幸いです。

[演奏曲]

グレゴリオ聖歌

聖母のミサのための固有唱

Gregorian chant: Proprium de Beata Virgine Maria

ジョスカン・デ・プレ

ミサ《フォルトゥーナ・デスペラータ(手に負えない、運命の女神よ)》

Josquin des Prez (ca.1450/55-1521): Missa Fortuna Desperata

トマス・ルイス・デ・ビクトリア

聖マリア、あわれな者を助けにきてください/アヴェ・マリス・ステラ(めでたし 海の星)

Tomas Luis de Victoria (1548-1611): Sancta Maria, succurre miseris / Ave maris stella

[演奏]

フォンス・フローリス古楽院関西講座2009

「グレゴリオ聖歌入門」受講生

「ルネサンス音楽を歌う」受講生

「フランドル楽派の音楽を歌う」受講生

[指揮・指導]

花井哲郎

早稲田大学第一文学部哲学専攻卒業。アムステルダム・スウェーリンク音楽院にて、オルガンとチェンバロを学ぶ。ロッテルダム音楽院において合唱指揮と管弦楽指揮のディプロマを取得。またブラバント音楽院にて古楽音楽アンサンブルをレベッカ・ステュワートに師事。またグレゴリオ聖歌の研究・演奏活動にも従事。1997年に東京にて「ヴォーカル・アンサンブル カペラ」を創設、以来ルネサンス・フランドルの宗教作品の演奏を続ける。古楽をレパートリーとするアンサンブル、合唱団、管弦楽団などを指導するほか、様々な講習会や講座の講師を務め、グレゴリオ聖歌、ルネサンス・バロックの宗教音楽の演奏と普及活動を行う。古楽アンサンブル「コントラポント」リーダー、フォンス・フローリス古楽院院長、国立音楽大学講師。



「母の家ベテル」阪急神戸線「御影」駅 徒歩7分
(〒658-0047神戸市東灘区御影3丁目27-22)